

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号

111

江戸川区立大杉第二小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	-7	-9	-16	令和8年度の目標	-10	-8.26	-10	-8.26	-6.72	-9.38	-8.54	-11.83	
令和7年度の結果	-16	-20	-36	令和7年度の結果	-14.3	-11.8	-9.6	-13.4	-12.2	-16.9	-10.5	-14.1	
令和6年度の結果	-10	-14	-24	令和6年度の結果	-15.7	-15.9	-13.3	-13.7	-11	-15	-7	-7	
令和5年度の結果	-13	-22	-35	令和5年度の結果									

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度 目標達成に向けた取組							
内容	目標			目標達成に向けた取組							
学校全体	<p>【成果】</p> <p>○江戸川区学力調査の結果から、令和6年度の同学年と比較すると、上位層への割合を微増させることはできた。朝の学習タイムを活用した指導や日常的な授業改善により、基礎・基本の定着を図ることに努めた。</p> <p>【課題】</p> <p>○しかし、基礎・基本の定着や学習内容の活用することについては、学校全体として不十分である。算数では特に「量と測定」、国語では、長文を読むことや自分の考えを文章で表現する問題の得点率が低かった。また、問題文を読む前に読めようという児童がD層に多いため、全体的に平均点を下げている。</p>	<p>○算数科ではCD層に対応できるように既習事項を取り出し、各単元で前学年の内容の復習を取り入れながら、習熟度に応じた授業展開を行うようにする。全学年が「スタンダード」に基づいた授業を実践する。</p> <p>○授業の中で日常的に自分の考えを文章表現する場面を設定し、積み重ねるようにする。また「読むこと」、「長文の読解」、「書くこと」(段落構成を意識した文章表現)ができるよう重点的な指導を行うようにする。</p> <p>○授業改善により、児童が主体的に学習に取り組むことのできる時間を増やす。</p>	<p>○区が主催する江戸川区スタンダード公開授業研修に参加し、校内で還元研修を行った。校内研究で授業改善を図った。</p> <p>○算数科では、既習事項を明らかにしながら、基礎・基本の定着を図ることができるようになる。全教員が各学年の系統性を共通理解し指導することができるようにする。</p> <p>○日常的に日記、手紙などを書くことを通じて、目的意識や相手意識を明確にし、学習した漢字や言葉を用いて、自分の考えや事実を段落構成を考えて書くことができるよう、発達段階に応じて指導を行うようにする。第4学年からは、よむYOMU ワークシートを効果的に活用する。国語だけでなく、他教科でも自分の考えを表現できるようにする。</p>								
第1学年	<p>【成果】</p> <p>○音読、指導を継続的に進めてきたことにより、読むことのできる児童は多い。簡単な加減計算はできる児童が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○算数科の「繰り上がりのあるたし算」、「繰り下がりのあるひき算」では即答できない児童が3割、そのうち、分からないと諦める児童が1割ほどいる。国語では、自分の考えや日常の出来事を自分から表現できない児童が3割程度いる。(算数の重点指導単元:「なんじなんぶん」、「くりあがりのあるたし算」、「くりさがりのあるひき算」、「どんなしきになるのかな」)</p>	<p>○国語科の授業や家庭学習で日記を書くことにより、学んだ漢字や言葉を活用し、自分の考えや事実を伝えられるようにする。</p> <p>○合成と分解が理解できるように指導を繰り返すこと、9割の児童が繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算をできるようにする。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。どの教科でも、学習内容を自分でまとめたり、振り返りたりする場面を設定し、文章表現をさせるようにする。</p>	<p>○週1回の家庭学習に日記を書くことや相手意識をもたせながら手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、学んだ言葉を用いて、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○基礎・基本の定着に向けて、合成と分解を理解できるようにブロックなどの半具体物の操作や図・式・言葉により説明する活動、100マス計算などの処理速度を上げる学習など授業改善を行う。取組カードにより、家庭学習を通して保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。</p>								
第2学年	<p>【成果】</p> <p>○音読、指導を継続的に進めてきたことにより、読むことのできる児童は多い。簡単な加、減法、乗法、除法の計算はできる児童が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○算数では、1分以内に九九を唱えることができない児童が2割程度いる。文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童が3割程度いる。取り組む前から諦めてしまう場合もある。国語では、自分の考えや日常の出来事を自分から表現できない児童が多い。(算数の重点指導単元:「時と時刻」、「たし算とひき算の筆算」、「長さ」、「かけ算」、「1を分けて」、「図をつかって考えよう」)</p>	<p>○国語科の授業や家庭学習で日記を書くことにより、学んだ漢字や言葉を活用し、自分の考えや事実を伝えられるようにする。</p> <p>○合成と分解が理解できるように指導を繰り返すこと、9割の児童がたし算、ひき算の筆算をできるようにする。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。どの教科でも、学習内容を自分でまとめたり、振り返りたりする場面を設定し、文章表現をさせるようにする。</p>	<p>○週1回の家庭学習に日記を書くことや相手意識をもたせながら手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、学んだ言葉を用いて、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○基礎基本の定着に向けて、合成と分解を理解できるようにブロックなどの半具体物の操作や図・式・言葉により説明する活動、かけ算の100マス計算などの処理速度を上げる学習など授業改善を行う。取組カードにより、家庭学習を通して保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。</p>								
第3学年	<p>【成果】</p> <p>○音読、指導を継続的に進めてきたことにより、読むことのできる児童は多い。計算はできる児童が多い。</p> <p>○国語科調査では、算数では「量と測定」、「数と計算」の領域、国語では「書くこと」、「読むこと」の領域が低い。</p> <p>○文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童が3割程度いる。取り組む前から諦めてしまう場合もある。(算数の重点指導単元:「時と時刻」、「あまりのわり算」、「重さ」、「かけ算の筆算」、「1000より大きい数」、「分数」、「口を使った式」)</p>	<p>○国語科の授業や家庭学習での作文指導を通して学んだ漢字や言葉を活用し、自分の考えや事実を伝えられるようにする。</p> <p>○算数の活動と公式など結び付けて理解できるように指導を繰り返すこと、8割の児童が理解できるようにする。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。</p> <p>○どの教科でも、学習内容を自分でまとめたり、振り返りたりする場面を設定し、文章表現をさせるようにする。</p>	<p>○行事作文を書くことや相手意識をもたせながら手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、学んだ言葉を用いて、事実と意見を明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○基礎・基本の定着に向けて、量感を捉えたり、数直線や目盛りなどを读んだりする算数的活動と単位変換を結び付ける指導や既習事項と結びつける指導などを取り入れた授業改善を行う。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。</p>								
第4学年	<p>【成果】</p> <p>○音読、指導を継続的に進めてきたことにより、読むことのできる児童は多い。簡単な加、減法、乗法、除法の計算はできる。</p> <p>【課題】</p> <p>○国語科調査では、算数では「量と測定」、「図形」の領域、国語では「書くこと」、「読むこと」の領域が低い。文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童、取り組む前から諦めてしまう場合が多い。</p> <p>○文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童が3割程度いる。取り組む前から諦めてしまう場合もある。(算数の重点指導単元:「大きな数」、「2けたの数のわり算」、「角」、「小数のしくみとたし算、ひき算」、「分数の大きさ」とし算、ひき算、「面積」、「立体」)</p>	<p>○国語科の授業や家庭学習での作文指導を通して学んだ漢字や言葉を活用し、自分の考えや事実を伝えられるようにする。</p> <p>○算数的活動と公式など結び付けて理解できるように指導を繰り返すこと、8割の児童が理解できるようにする。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。</p> <p>○どの教科でも、学習内容を自分でまとめたり、振り返りたりする場面を設定し、文章表現をさせるようにする。</p>	<p>○行事作文を書くことや相手意識をもたせながら手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、学んだ言葉を用いて、事実と意見を明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○問題場面を理解しやすい導入の工夫や図・式・言葉により自分の考えを説明する活動、児童自らが学習を振り返る活動を授業の中に取り入れる。授業、家庭学習、算達タイム、放課後補習(教員、外部)により、児童が学んだことを確かめ、質問できたり、解き直したりできる場面を増やすようにする。</p>								
第5学年	<p>【成果】</p> <p>○音読、指導を継続的に進めてきたことにより、読むことのできる児童は多い。簡単な加、減法、乗法、除法の計算はできる。</p> <p>【課題】</p> <p>○国語科調査では、算数では「量と測定」、「図形」の領域、国語では「書くこと」、「読むこと」の領域が低い。文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童、取り組む前から諦めてしまう児童の割合が多い。</p> <p>○文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童が3割程度いる。取り組む前から諦めてしまう場合もある。(算数の重点指導単元:「小数のかけ算」、「小数のわり算」、「合同と三角形、四角形」、「分数の大きさ」とし算、ひき算、「単位量あたりの大きさ」、「わり算と分数」、「四角形と三角形の面積」)</p>	<p>○国語科の授業や家庭学習での作文指導を通して学んだ漢字や言葉を活用し、自分の考えや事実を伝えられるようにする。</p> <p>○算数的活動と公式など結び付けて理解できるように指導を繰り返すこと、8割の児童が理解できるようにする。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。</p> <p>○どの教科でも、学習内容を自分でまとめたり、振り返りたりする場面を設定し、文章表現をさせるようにする。</p>	<p>○行事作文を書くことや相手意識をもたせながら手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、学んだ言葉を用いて、事実と意見を明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○問題場面を理解しやすい導入の工夫や図・式・言葉により自分の考えを説明する活動、児童自らが学習を振り返る活動を授業の中に取り入れる。授業、家庭学習、算達タイム、放課後補習(教員、外部)により、児童が学んだことを確かめ、質問できたり、解き直したりできる場面を増やすようにする。</p>								
第6学年	<p>【成果】</p> <p>○全国学力調査後に「読むこと」の指導を継続的に進めてきたことにより、説明文の読解について理解できるようになった児童が増加した。</p> <p>【課題】</p> <p>○国語科調査では、算数では「数と計算」、「図形」の領域、国語では「書くこと」の領域が低い。文章問題に相手意識をもち、場面の理解ができない児童、取り組む前から諦めてしまう児童の割合が多い。</p> <p>○算数では、自分の考えを自分から表現しようとする児童の割合も多い。(算数の重点指導単元:「文字を使った式」、「分数のかけ算」、「分数のわり算」、「円の面積」、「弧長と扇形」、「比例と反比例」、「角柱と円柱の体積」)</p>	<p>○国語科の授業や家庭学習での作文指導を通して学んだ漢字や言葉を活用し、自分の考えや事実を伝えられるようにする。</p> <p>○算数的活動と公式など結び付けて理解できるように指導を繰り返すこと、8割の児童が理解できるようにする。自分の考えを図、式、言葉を使って、表現できるようにする。</p> <p>○どの教科でも、学習内容を自分でまとめたり、振り返りたりする場面を設定し、文章表現をさせるようにする。</p>	<p>○行事作文を書くことや相手意識をもたせながら手紙を書くことを計画的に行ったりすることで、学んだ言葉を用いて、事実と意見を明確にして文章を書くことができるようになる。</p> <p>○問題場面を理解しやすい導入の工夫や図・式・言葉により自分の考えを説明する活動、児童自らが学習を振り返る活動を授業の中に取り入れる。授業、家庭学習、算達タイム、放課後補習(教員、外部)により、児童が学んだことを確かめ、質問できたり、解き直したりできる場面を増やすようにする。</p>								